

「神戸市漁業協同組合」視察報告

2. 2014年7月14日（月） 13:30～14:30

面会者：神戸市漁業協同組合 山田理事長

出張者：藤原、大寺、平木、川原田、伊藤

理事長より～

- ・県会では、水産議員連盟を作ってもらっており、42, 3名に入ってもらっている。
- ・瀬戸内海周辺の自治体で瀬戸内海的环境保護の取り組み、必要性を議論。H19年10月、瀬戸内海関係府県市（13府県、6政令指定都市、12中核市）で構成する「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」（議長：兵庫県知事 井戸敏三）により、国に特別要望を実施。
- ・H24年12月10日、江田五月環境大臣を訪問し、答申書を提出した。
- ・法整備に関し、後継審議となる。
- ・「きれいで豊かな海」を目指す。自公が16日、豊かな海の再生を目指す「瀬戸内海環境保全特別措置法改正案」を参議院に提出した。民主党も賛成してほしい。
- ・瀬戸内海は、砂場や藻場が少なくなってきた。海の砂を採取しすぎている。海底の砂を掘って売ってしまったので、海底の砂に堰があって、濁った水になる。
- ・ホトギス貝 あさりの上に膜を張る。
- ・あさりの稚貝を市県・みのりの公社でまいている。
- ・川にたまった砂を海に戻してやるべきだ。
- ・須磨海岸も、一文字の近くはヘドロがたまっている。今、水深が6mくらいある。一文字の間に砂を入れて4mくらいにすれば遠浅でない、よい海水浴場にもなる。
- ・武庫川の砂を塩屋や須磨に入れる。
- ・神戸では漁獲高が3割減になっている。
- ・全漁連では、魚のブランド化を目指している。また、月に1度魚を食べる日を作って魚を食べる運動。

- ・食品偽装事件などがあり、国産の魚の安全性が再評価される。外国の養殖魚は禁止された薬剤が使われていることもある。
- ・のりの生産は、日本全体で70億枚、うち、兵庫県は13億枚、須磨垂水で1億枚。1億枚で9.3億円の売り上げ。
- ・県漁連として400億円くらいの規模。15年前と比べると、燃料の油代が2.5倍、資材は1.5倍にも値上がりしている。

